

## 令和7年度遠野高等学校経営計画

1	校訓・教育目標	<p>【校訓】修徳尚武          【校是】師弟一如          【教育目標】本校は、次のような人材の育成を目標として教育実践を行う。</p> <p>(1) 豊かな知性と人間愛をもつ人          (2) 高い徳性と美を求める心をもつ人          (3) 強い体力と自主・自律の精神をもつ人</p>
2	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>校訓「修徳尚武」の下、以下の力を育成します。</p> <p>ア 「確かな学力」「物事について根拠をもとに疑問を持ちながら思考し正しく認識する力」「必要な情報を選択し解決の方向性や方法を比較・選択し結論を決定していく力」及び「自分の言葉でわかりやすく表現する力」を育成します。</p> <p>イ 「自己管理能力」を高めながら「身につけた知識や技能を活用する力」を育成します。</p> <p>ウ 「自己を肯定する力」「他者を理解し共感する力」及び「自他の生命や人権を尊重する力」を育成します。</p> <p>エ 「世界を感動とともに捉えられる力」「自他に対して優しく思いやりを持って対応できる力」及び「他者と協働して活動する力」を育成します。</p> <p>オ グローカルな視点を持って、「主体的に未来を切り拓く力」を育成します。</p> <p>カ 生涯を通じて健康な生活を送ることができる「健やかな心と体」を育成します。</p>
	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>校是「師弟一如」の精神に則り、以下の教育活動を行います。</p> <p>ア 本校教育の三本柱として、以下の教育活動を行います。</p> <p>(ア) アクティブ・ラーニングの視点やICTの活用などにより授業改善を図り、「わかる授業」の実践や、「主体的・対話的で深い学び」により、確かな学力が身につく教育活動を行います。</p> <p>(イ) 創立から120年を超える伝統と、これまで培ってきた地域との信頼関係を基盤に、地域や産官学と連携して、総合的な探究の時間である「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」を通じて、自己のあり方や生き方を考えながら、これからの社会に貢献するグローバルな視点を持ち地域の活性化に資する人材（グローバル人材）として必要な資質・能力を育成する教育活動を行います。</p> <p>(ウ) 海外派遣や学校外関係機関等との交流、海外の高校生を受け入れて交流を図るなどの対外交流事業に、様々な制度を活用して積極的参加を促すことで、異文化理解を深める教育活動を行います。</p> <p>イ 特別活動や体験活動など学校の教育活動全体を通じて、豊かな心や協調性を培う教育活動を行います。</p> <p>ウ 体育・健康に関する指導など学校の教育活動全体を通じて、健やかな心と体を養う教育活動を行います。</p>
	(3) 入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>基礎的な学力を有しており、以下のいずれかに該当する生徒を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身や仲間を大切にしながら、自らの個性や長所を伸ばそうと努力する生徒。</li> <li>・豊かな知性を求めるとともに、地域や社会の発展に貢献したいという志を持っている生徒。</li> <li>・部活動や生徒会活動などに積極的に取り組み、充実した学校生活を送る意欲を持っている生徒。</li> </ul>
3	魅力化協働パートナー	<p>遠野市、遠野地域住民、遠野市教育文化振興財団、同窓会、PTA、遠野市内中学校、株式会社遠野テレビ、株式会社栄組、有限会社内田書店、富士大学</p>

		重点目標	達成指標
(1) 今年度の重点目標		ア 新しい時代を見据えた授業改善	・学校評価において、国・数・英の授業の内容がわかると回答した生徒の割合【70%以上】
		イ 総合的な探究の時間「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」の充実	・探究活動に魅力化パートナー等校外団体が参加した回数【のべ100回以上】
		ウ 校外交流事業・活動への積極的参加	・校外交流事業に参加した生徒の人数【のべ50人以上】
		エ キャリア教育の充実と進路希望実現の達成	・進学希望者のうち大学等進学率【60%以上】 ・就職の県内就職・就業率【60%以上】
		オ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる	・学校評価において、いじめやいやがらせがなく、落ち着いた学校生活を送っていると回答した生徒の割合【80%以上】
		カ 生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する	・学校評価において、安心して学校生活を送ることができていると回答した生徒の割合【80%以上】
	(2) 取組方針		ア 新しい時代を見据えた授業改善 (ア) ICTの積極的活用とともに、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善を行う。 (イ) 生徒個々の実態に応じた個別最適な学びの推進により、基礎学力の定着を図る。 (ウ) Microsoft TeamsやClassiの活用等の工夫により、授業と有機的に関連させた家庭学習の充実を図る。
		イ 総合的な探究の時間「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」の充実 (ア) 探究活動を通じて、グローバルな視点や、自己のあり方や生き方を考えながら課題を発見する力を育成する。 (イ) 探究活動を通じて、課題解決に向けた過程の中で思考力や判断力、主体性、協調性を育成する。 (ウ) 地域や魅力化協働パートナー等関係団体との連携を密にする。	
		ウ 校外交流事業・活動への積極的参加 (ア) 海外交流事業・活動に関して、遠野市姉妹都市米国チャタヌーガ市への生徒派遣、同市からの生徒等受入、同市以外の海外との交流事業・活動への積極的な参加を推奨する。 (イ) 国内における交流事業・活動に関して、生徒の派遣や受入による交流事業・活動への積極的な参加を推奨する。 (ウ) 地域や魅力化協働パートナー等関係団体との連携を密にする。	
		エ キャリア教育の充実と進路希望実現の達成 (ア) 充実したキャリア教育により総合生活力と人生設計力を育成する。 (イ) 地域や魅力化協働パートナー等関係団体との連携を密にする。 (ウ) 全教員による小論文・面接指導と、適切な情報共有による多様な進路に対応する進路指導の充実を図る。	
		オ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる (ア) 生徒個々への愛情をもった適切な寄り添いによる良好な関係構築を基盤に、いじめに向かわせない環境作りに努める。 (イ) いじめに係る情報があった時には、いじめ防止基本方針に則って、いじめ事案対応員会の機動、いじめ対策委員会の開催、情報の迅速な共有、適切な方法による事実関係の把握といじめであるか否かの判断を行う。 (ウ) いじめの被害生徒に対する支援、加害生徒に対する指導の体制・対応方針の決定と保護者との連携といった対応を、組織的に実施する。	
		カ 生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する (ア) 全教職員等が子どもの権利条約等についての理解を深め、生徒の人権を尊重した指導を行う。 (イ) 体罰及び不適切な指導の根絶を目指し、教職員の資質能力の向上を図るため、教職員研修を行う。 (ウ) 「生活に関するアンケート」等を活用し、教職員による体罰や不適切な指導に係る情報を定期的に収集する。	